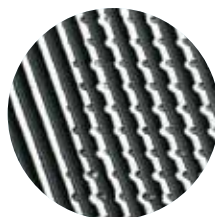


ソフトウェア SOFT WORK FILES

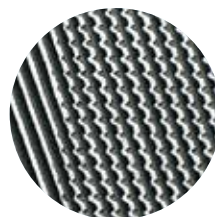
242



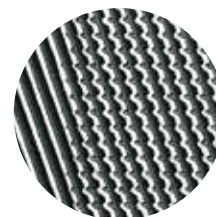
PRICE-242



荒目
Bastard



中目
Second



細目
Smooth

■用途

- プラスチック、石膏ボード、硬質ゴムなどの軟質材に。チップブレーカー付。

- Use : For Plastics, Plaster Board, Hard Rubber, etc. with the function of chip-brakers.



規格表 STANDARD TABLE

		平 HAND				半丸 HALF ROUND (SHELL TYPE)			
					ITEM NO.				ITEM NO.
INCH	mm	W × T mm	kg-doz	BOX pcs		W × T mm	kg-doz	BOX pcs	
6	150	—	—	—	—	—	—	—	—
8	200	19 × 6.0	1.63	6	HI 200 * *	18 × 7.0	1.25	6	HA 200 * *
10	250	25 × 6.5	2.40	6	HI 250 * *	23 × 8.0	1.91	6	HA 250 * *
12	300	30 × 7.5	4.43	6	HI 300 * *	26 × 8.0	2.10	6	HA 300 * *

ITEM No. * * assorted

	荒目 Bastard	中目 Second	細目 Smooth
* *	71	72	73

〈ITEM No. 例〉 ソフトワーク半丸 250 mm 中目 : HA25072

〈ITEM No.ex〉 SOFT WORK FILES HALF ROUND 250 mm Second : HA25072

やすり八題 ④

荻山 信行

江戸時代中期の絵入り百科辞典『和漢三才図会』に、四本のやすりが記されている。雁岐鋸（がんぎやすり）、両手鋸までは分かるが、他の二本には名称がない。

説明文は「四聲字苑云…」で始まり、「雁岐鋸」で終わっている。

竹島淳夫の訳注は次の通りである。「『四聲字苑』によれば、鋸は鋸齒（のこば）を鋭くするための器具である。銅・鉄を磨きするものである。思うに、鋸は生鉄をまじえず銅だけで作る。形は畳んだ扇のようで表裏に細い刻目を作り、こうして鉄器を摩削する。大小の数種があって、大鋸を鋭くする鋸の歯は三稜になっている。また獸角を磨くものは歯が荒くなっており、これを雁岐鋸という」（平凡社・和漢三才図会・五）。

「鋸は生鉄をまじえず…」の『生鉄』がよく分からない。生鉄を「しょうてつ」と読むと、非常に面白い銑鉄（鑄鉄の原材料）になる。「なまてつ」と読むと、軟かくて焼きの入らない銅になる。銑鉄を混ぜて鍛造することはありえないので、ここはしょうてつではなくて、なまてつである。

文意は、鋸は焼入れして硬くなる銅だけを使用して、焼きの入らないな

和漢三才図会

まてつは混合使用しないで作る、となる。

大鋸を目立てするやすりは、三つの稜がある。となっているが、稜が三つあるのは三角やすりのことであろうか。しかし、絵（呼び名のついていない鋸）をよく見ると、現在の刃やすりに似ている。刃やすりは、鋸の目立てに使用する。断面は菱（ひし）形をしており、四つの稜を持つ。大鋸の目立てやすりは三角やすりなのか刃やすりなのか、異論のあるところである。

ちなみにドイツでは、鋸用やすりとして三つの稜持つ「三角鋸鋸」を使用している。

獸の角を磨くやすりは横直線で目の粗い雁岐鋸を使用する。雁岐は石段の重なる様を表す、ガンギのことであろう。

（広島県立西部工業技術センター主任研究員＝呉市）

緑地帯 3. 10. 1 中国新聞より